

# トップメッセージ



日頃よりゆうちょ銀行をご愛顧いただき、  
誠にありがとうございます。  
当行は、新たなビジネスへの挑戦および持続的な  
成長と企業価値向上に取り組んでまいります。

取締役兼代表執行役社長

池田 豊人

## 2023年度中間期の業績、通期の業績予想 および株主還元

2023年度中間期の業績は、市場環境が大きく変化  
する中、親会社株主に帰属する中間純利益は1,821億円と  
なり前年同期比+235億円、通期業績予想3,350億円に  
対する進捗率は54.3%と堅調な推移となりました。

今回の中間期の業績や市場動向等を踏まえ、3,350億  
円の通期業績予想を維持するとともに、期末配当予想に  
ついても期初予想の50円を維持します。引き続き、通期  
業績予想・期末配当予想の達成に向けて、全社一丸となっ  
て取り組んでまいります。

## 企業価値向上に向けた成長アクション

2023年3月、東京証券取引所からプライム市場および  
スタンダード市場の全上場企業に対し、「資本コストや株  
価を意識した経営の実現に向けた対応」の要請がなされ、  
特に市場評価という観点において、PBR(株価純資産倍  
率)\*1倍割れの企業における取り組みに対する資本市場  
からの関心が高まっている状況です。

当行は従来から資本の効率的運用に取り組んでまい  
りましたが、2023年9月末時点の当行PBRは約0.5倍とな  
っており、経営上の大きな課題であると認識しております。

このような状況下、郵政民営化法に基づく業務規制へ  
の対応と金融ユニバーサルサービスを提供する責務を果  
たしつつ、「邦銀随一のお客さま基盤である1.2億の通常  
貯金口座」「本邦最大級の安定的な資金基盤であるリテ  
ール中心の貯金194兆円」「全国津々浦々のネットワーク  
である約24,000店の店舗ネットワーク」という当行独自の  
強みを活かした成長戦略として、リテールビジネス・マ  
ーケットビジネス・Σ(シグマ)ビジネスの3つの成長エンジ  
ンの強化を図り、ROEの向上を通じた企業価値向上・PBR  
改善を目指してまいります。

リテールビジネスにおいては、リアルとデジタルの相互  
補完を通じたお客さま本位のビジネス戦略を推進して  
おります。店舗ネットワークを維持しつつ、店舗での丁寧な

ご案内を通じて、すべてのお客さまが利用しやすいデジ  
タルサービスの提供を進めてまいります。特に、順調に  
登録口座数を増加させている通帳アプリ等を起点に、お  
客さまに最適な自社・他社サービスをご案内することで、  
お客さまの利便性をさらに高めてまいります。

マーケットビジネスにおいては、リスク対比リターン  
の向上に向け、外国証券等を中心としたリスク性資産に投資  
を振り向け、国際分散投資を推進してまいりました。今後  
も、安定的な資金基盤と資本を活用し、リスク性資産に係  
る収益の持続的な成長を図るとともに、長らく低位で推  
移してきた国内金利の上昇局面を捉え、日本国債等の円  
金利資産に係るポートフォリオを再構築し、収益の拡大を  
目指してまいります。

Σ(シグマ)ビジネスは、全国の成長が期待できる投資先  
(中堅・中小企業)の発掘、多様な枠組みを通じたエクイ  
ティ性資金の供給、投資先のマーケティング支援を通じ  
て、社会課題解決と企業価値向上を図る新しい法人ビジ  
ネスであり、全国津々浦々に店舗ネットワークを有する  
という当行の強みを活かし、新たな収益機会の獲得を目指  
してまいります。

## 最後に

現在、中期経営計画(2021年度~2025年度)の見直  
しを検討しており、2024年度、2025年度の具体的な当  
期純利益・ROE目標および達成に向けた取組施策等につ  
いては、見直し後の中期経営計画とあわせて2024年5  
月に開示予定です。

今後も、ステークホルダーの皆さまのご理解とご支援  
を賜りながら、新たなビジネスへの挑戦、および持続  
的な成長と企業価値向上に取り組んでまいります。引き続  
き、ますますのご支援・ご高配を賜りますようお願い申  
上げます。

※ 株価を1株当たり純資産(BPS)で割ることで算出する指標。PBRが  
1倍未満の場合、将来の成長を加味した市場価値である時価総額が  
純資産を下回る状況を意味する。